

（仮称）唐木田図書館の運営について

1 これまでの経緯

図書館に対する市民のニーズは、利用時間や蔵書数などの「量」に対しては増大し、サービス内容や資料の高度化・専門家などの「質」に対しては多様化しています。社会情勢も多摩市の状況も厳しさを増す中、拡大する市民の期待に応えて行くためには、従来通りの運営手法が必ずしも最善とは言えません。そのため、将来に向けて運営を見直し、新たな手法を模索し、見極めて行くことが不可決です。

そこで、小田急線唐木田駅至近に平成23年2月開設予定の（仮称）唐木田コミュニティーセンター内に、市内7番目の図書館として開館する（仮称）唐木田図書館では、これまでとは異なる運営手法を検討して来ました。当初は地域の大学との連携に期待をかけたもののいったん保留となり、改めて幾つかの運営手法を分析、比較検討しました。その結果、直営を基本として業務委託を導入する手法が、現時点では最もメリットが大きく現実的であると仮定付けました。

（→『資料1（仮称）唐木田図書館の運営手法比較 概要』参照）

次の段階では、その仮定を検証すべく、個々の業務の要素を数百に分解し、3つの段階に区分し、できるだけ具体的にシミュレートしながら、役割分担の仕分けを行いました。このたびその検討がほぼ終了し、実施は可能との結論に至りました。

（→『資料2 主な業務の概念図』参照）

2 多摩市立図書館の特異性及び新方式について

業務委託導入の主な長所は、民間の技能、能力が活用できること、職員が新規、専門性を発揮できる業務に携われることなどが挙げられます。民間の技能、能力は市が学ぶべきところも多くあります。それを最大限生かすため、受託者の選定は企画提案型で行います。

多摩市立図書館は、全国でも特異な全館一体運営の方式をとり、図書館の運営や方針に関わることは「全体業務」と位置付けて統一しています。これは委託可能な業務が限定され直営部分が厚いことを意味し、サービスを統一しやすい利点となると同時に、民間の良さを抑えかねない懸念もあります。多摩市自治基本条例において、企業も「市民」と定義している趣旨に鑑み、単なる委託、受託の関係を越えた協働の精神で、互いの良さを尊重し伸ばし合う関係を築きたいと考えています。

この手法での運営は、予め実施期間を設定し、利用者アンケートなど多様な角度から適正に評価し、その上で今後の地域図書館運営の手法、図書館全体の運営の方向を見定めて行くことを想定しています。それに際しては、新手法の是非と他の図書館の比較はもとより、市民運営、大学連携、または、今回の検討では選択肢に挙げなかった他の手法等も改めて視野に入れます。

3 今後の進め方

以上の検討結果を公表し、図書館全館及びウェブにおいて、アンケートを実施したいと考えています。パブリックコメントと同様、いただいた意見に図書館の意見を添えて公表します。

（→『資料3（仮称）唐木田図書館運営に関するアンケート』参照）

ひとつの地域館の運営手法を皮切りに開始した検討ですが、多摩市立図書館がこれまで何をめざしてきて、これからなにをめざすのか、図書館は何のために存在し職員ひとりひとりに何ができるのかを見つめなおす結果となりました。今後も続けて検討して参ります。